

城里町の文化財さんぽ(五五)

町指定文化財(絵画)

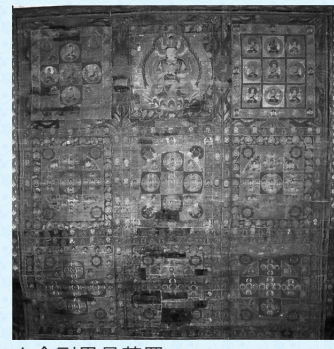
「両界曼荼羅」

指定年月日／昭和五十七年七月二四日  
所在地／城里町那珂西  
管理・所有者／玉幢院

両界曼荼羅は、真言密教の宗教観を絵画で表現したもので、論理的な知恵の世界を表す金剛界曼荼羅と、実践的な理法の世界を表す胎蔵界曼荼羅(大悲胎蔵曼荼羅)からなっています。

城里町には、県指定文化財一点町指定文化財二点の両界曼荼羅があります。県指定の一点は徳蔵寺所蔵の「両界曼荼羅版本」で、町指定の二点は宝幢院所蔵の「両界曼荼羅」と「絹本着色両界曼荼羅図」です。

県指定の「両界曼荼羅版本」は、すでに平成二八年の文化財さんぽ(二二)で紹介しましたので、今回は町指定文化財「両界曼荼羅」を紹介します。



▲金剛界曼荼羅



▲胎蔵界曼荼羅

います。画面の大きさは、縦一二二センチメートル・横一〇センチメートル程です。製作年代は、室町時代後期と推定されており、表裏の墨書等からこれまで幾度も修復されてきたことが分かります。「両界曼荼羅」の箱書には「塚久山金剛院」と記されており、元々は江戸時代後期に廃寺となった金剛院(石塚)の仏具であったものと思われまます。

問合せ 教育委員会事務局  
☎029-288-3135

俳句

やはらかき陽射し斜めに崩れ築  
今瀬 多代美  
芒原海鳴りに似し風の音  
瀬谷 博子  
ウォーキング靴紐しめて鴉日和  
綿引 英子  
毛糸編む母の背小刻みにゆれて  
中野 千賀子  
秋出水しやうゆの匂ふ握り飯  
竹内 幸子  
地にふれて白萩さらに萩明り  
田口 勝元

文芸しろさと

短歌

白々と畑一面にそばの花咲  
きて静けし初秋の里  
渡辺 千紗子  
今日も来て娘夫婦は竹山へ  
竹の整理に一日働く  
所 美恵子  
天皇の「黄櫨染御袍」と皇后  
の「十二単」の古式ゆかしく  
山形 式妙  
こだわりを忘れて遊技に勤しま  
む老いての健康つなぐ思ひに  
杉山 みちこ  
樹々ゆすり風が鳴く音に目覚め  
たり深夜にひとり不気味さ覚ゆ  
大森 久子

川柳

山際が光り冬耕の初の畝  
仲田 まちゑ  
参道にカメラ構へて七五三  
寺門 孝子  
台風の爪あとのこり菊日和  
羽石 雅春



川柳

被災者の再起を祈り除夜の鐘  
富田 多蔵  
ボールを愛で付度されてホールインワン  
車田 綾子  
師走きてガックリ亥の子奥山へ  
川原 清



日課とす般若心経唱うれば  
詠歌に集ひし日の廻りくる  
青柳 京子  
過ぎ去りし遠き思い出重ね  
つつひとり唱うる追弔和讃  
佐川 あや  
昨夜の月離れ住む孫子も拜せ  
しや山茶花散れる朝に思う  
島 愛子  
即位礼テレビに釘付け我が国  
の古式ゆかしき伝統に触れ  
信田 育子  
度重なる豪雨災害に見まわれ  
ぬ嘘のごとくに今日の青空  
富田 佐智子  
働くこと以外に何があっただ  
ろうICUの長姉の手握る  
萩谷 登喜子

母逝きし幼なご七人日本に  
と父の強さよ我孝行もせず  
菌部 光子  
正月は孫ら来てくれ嬉しい  
が獅子舞よりもお年玉飛ぶ  
富田 欽子  
癌といふ忌まはしき話思いつ  
つ天逝の伯父の住所録消す  
矢次 洋平

